

星空を見上げよう！

わし座、はくちょう座、さそり座、北斗七星に夏の大きな三角。夜空を見上げると、無数の星が私たちを見下ろしています。まるで、遠い昔からのメッセージを私たちに伝えるかのように…。そろそろ夏休み。時には童心にかえて、昔おぼえた夏の夜の星座をさがしてみませんか？

おすすめ

7月・8月の天体ショー

- ・ペルセウス座流星群…8月12日、13日。午前0時頃～明け方3時くらいまでが見ごろ。全天にわたって見えますが、特に東の空がおすすめ。
- ・木星…7月、8月、9月。宵の口～夜半前くらいが見ごろ。南東の空、低い位置に見えます。
- ・皆既月食…8月28日。18時頃からはじまり、22時くらいで終了。月の出の頃には既に月食が始まっている。



▲しし座流星群・岡山県 虫明にて。撮影 永長英夫さん（鷓野町）

加西の星空 穴場スポット



鷓野飛行場跡地近く



▲自宅に設置している天体望遠鏡を覗き込む永長さん

天体望遠鏡を据え付け、長年彗星や惑星の観測を続けて来られました。永長さんによると、県内でも比較的光度が低く、平地で見通しがよいため、天体観測にはうってつけなのだとか。



▲ダイヤモンドリングの瞬間。エジプトにて。撮影 永長英夫さん。

「星空が綺麗に見える場所に家を建てたかった。」と話すのは、永長英夫さん（鷓野町）。約30年前に市外から夜空が一番美しい所を探し求めて、鷓野飛行場跡地近くに自宅をかまえ、自分で設計・建築したプラネタリウムを建て、

また、永長さんは珍しい天体ショーを見るために、世界中を旅することもあるのだそうです。例えば「ダイヤモンドリング」を見ることができるのは、ほんの一瞬。その一瞬のために何ヶ月も前から準備をして、見事見る事ができたときの感動は、言葉では言い表せないものがあるそうです。

なぜ梅雨どきに七夕？



太陽暦への変更

おり姫星（こと座・ベガ）とひこ星（わし座・アルタイル）が1年に1度会うことができる七夕ですが、7月7日といえば梅雨の真っ只中。例年この時期に2つの星を見ることは難しいのです。

ではなぜ、この時期に「七夕まつり」なのでしょう？その原因は明治の改暦にありました。もともと七夕は、旧暦の7月7日に祝っていたもの。ところが、明治6年から旧暦ではなく、西洋式の太陽暦を使うようになったため、七夕も約1ヶ月早い時期に祝う行事となってしまったのです。

ちなみに、2007年の伝統的七夕（旧暦の七夕に該当する日）は、8月19日。この頃には梅雨もすっかり明け、年に数回しかくっきりと見られないと言われる天の川と、その両岸にたたずむ、おり姫星とひこ星が美しく見えることでしょう。

〈出典 Astro Arts ホームページより〉

注意

- ・静かに見るようにしましょう！
- ・ゴミは捨てないで！
- ・光は最小限に！